

1984年カンヌ映画祭  
最優秀監督賞



ベルトラン・タヴェルニエ監督作品

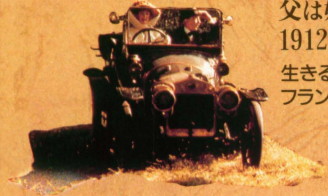
# 田舎の日曜日

イギリス批評家協会賞 外国語映画賞  
ニューヨーク映画批評家賞 外国語映画賞  
1985年セザール賞  
主演女優賞・脚色賞・撮影賞

いなかのちよび

人生のやりなおしはきかない……

娘は父の告白に感動し  
父は娘の愛に胸うたれた  
1912年、パリ郊外の日曜日  
生きるよろこびを流麗にうたう  
フランス映画の新しい秀作!



## Un Dimanche à La Campagne

監督・製作 ベルトラン・タヴェルニエ  
脚本・脚色 合詞・ベルトラン・タヴェルニエ/コロ・タヴェルニエ  
原簿 エニール・ボワ  
撮影 マル・ド・ケイゼル  
録音 ヤー・ムシ・アマ  
美術・ドレス・メルシエ  
衣裳 伊藤・カサノバ・シムール  
音楽 ジョージ・ヤン・ド・ラ・トール (原簿作曲監修)・指揮 op. 115 他  
ルネ・ユカール/マルタ・ボロニス  
編曲 フロリアン・サルド  
製作代表 アラン・サルド  
ルネ・ユカール・サビーヌ・ヌアゼマ/ジェルオー・モン  
ジュヌ・ワニエ/ジャン・ニコラ/モニック・シムール  
フランス映画 SARA FILMS + FILMS A2 +  
LITTLE BEAR 製作



パウ・シリーズ  
フランス映画社提供

DESIGN: M. OGUSAWARA

'84年カンヌ国際映画祭  
最優秀監督賞  
ベルトラン・タヴェルニエ  
監督作品

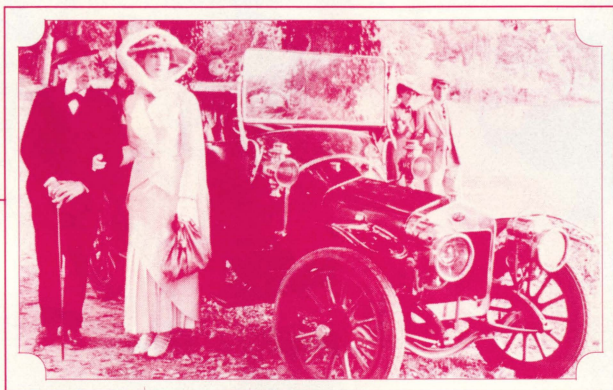
# 田舎の日曜日

Un Dimanche  
à La Campagne

パウ・シリーズ  
BOW フランス映画社提供

「田舎の日曜日」は、タヴェルニエの長篇第8作で、ピエール・ポストが書いた最後の小説の映画化。  
主人公の画家ラドミラル氏は72才で映画初主演のルイ・デュクルー。小柄で冗談好きな老画家が、最後に新しい画布にむかう姿は深い感銘をあたえずにいながら、初主演とはいえない、デュクルーは演劇界の重鎮で、俳優、演出家、作曲家、小説家と多彩な経歴の人で、「田舎の日曜日」でも、レストランのシーンのボルカを作曲し、美術考証でも絶大な助言を与えた。娘イレーヌ役のサビーヌ・アゼマは演劇出身の美しい大型新人で、アラン・レネ作品の主演がつづいている。1912年のドラージュR4型ファッション・カーが自然の美しさに映え、高雅なフォアレの音楽と、リュミエール兄弟に敬意をささげるオトクROOM調の撮影で全篇に心やさしさがあふれる。

●イントロダクション  
今世紀のはじめ、初秋のパリ郊外の、自然にかこまれた邸に、息子ゴンザグの家族と、とつぜん訪れた恋する娘イレーヌを迎える画家ラドミラル氏の忘れられない一日を描く「田舎の日曜日」は、ベルトラン・タヴェルニエ監督の心こもる秀作。  
1984年カンヌ映画祭で、心をあらう感動と絶賛されて最優秀監督賞を受賞。翌85年のセザール賞でも3部門受賞。サビーヌ・アゼマの主演女優賞、ベルトラン・コロ・タヴェルニエ夫妻の最優秀脚色賞、ブルノ・ド・ケイゼルの最優秀撮影賞(賞)のほか、イギリス、アメリカで、それぞれ外国映画のベストワンに選ばれ、大ヒットしている。  
監督のタヴェルニエは1941年、中部フランスの文化都市でリュミエール兄弟が、映画を発明したりヨン市で文学畑の家に生まれた。10代から映画狂少年として知られ、パリでラングロワのシネマテークにいりびたり、ヌーヴェル・ヴァーグの弟世代として監督デビューの機会をうかがったが、長篇第1作は1974年の『サン・ボールの時計屋』。脚本にかつてトリュフォーやゴダールら兄貴世代が威勢よく抹殺した「禁じられた遊び」や「肉体の悪魔」などのジャン・オーランシユとピエール・ポストのコンビを復活させてあつと言わせた。



【スタッフ】

監督・製作……………ベルトラン・タヴェルニエ  
脚本・脚色・台詞……………ベルトラン・タヴェルニエ  
……………コロ・タヴェルニエ  
原作……………ピエール・ポスト  
撮影……………ブルノ・ド・ケイゼル  
録音……………ギヨーム・シアマ  
音楽……………ガブリエル・フォーレ 他  
製作代表……………アラン・サルド

【キャスト】

ラドミラル氏……………ルイ・デュクルー  
娘イレーヌ……………サビーヌ・アゼマ  
息子ゴンザグ・エドアル……………ミシェル・オーモン  
嫁マリー・テレーズ……………ジュヌヴィエーヴ・ムニク  
メルセデス……………モニーク・ショメット  
孫エミール……………トマ・デュヴァル  
リュシアン……………クアンタン・オージェ  
ミレイユ……………カティア・ポストリコフ

フランス映画・1984年 SARA FILMS+FILMS A2+LITTLE BEAR 製作/イーストマン・カラー  
フィズサイズ(1×1.66) / 1時間35分 / 全5巻・2,583m  
1984年 カンヌ国際映画祭最優秀監督賞 / イギリス批評家協会賞外国語映画賞 / ニューヨーク映画批評家賞外国語映画賞 / 米国家ショナル・ボード・オブ・レビュー外国映画賞、助演女優賞  
セザール賞主演女優賞、脚色賞、撮影賞

●ストーリー  
1912年初秋の田舎の日曜日。  
朝の陽光に美しい樹木と広い庭、母屋と、別棟にアトリエのあるラドミラル氏の邸。  
ラドミラル氏は画家。時代に大きく咲いた印象主義の潮流の一步わきで、写真の発明におびやかされながらも、ささやかな自分の世界を描いてきた風景画家だ。数年前までは邸の外に出て風景を描いていたが、次第に、家の中から見えた風景を、そして最近のは、晩年の心境からか。日曜日はパリから息子ゴンザグの家族が訪ねてくる。駅まで10分と計算して迎えに出かけるラドミラル氏に、十年前と違いますよとたしなめる家政婦のメルセデス。その予言どおりに、氏は道の途中で駅から来たゴンザグたちに会ってしまった。遅れたことを氏は冗談にまぎらわせた。

ようとするが、息子のゴンザグはあい変わらず真正直で、冗談が冗談にならない。嫁のマリー・テレーズは、美德の素質がそわわりながらそれが発揮されぬ不幸な女の一例。ふたりの孫息子エミールとリュシアンは腕白、孫娘ミレイユは身体が弱い。陽気でにぎやかな昼食に午睡。これで娘のイレーヌが、いかに家族がそろとうと、ふとなくなつた妻のことを思いだすラドミラル氏。  
そこへイレーヌが前ぶれもなく最新車ドラージュを駆ってやってきて、団欒の空気が一挙に華やいだ。  
古い物入れから、母の遺品のシヨールの山のなかに、父が昔描いたに違いない情熱的で幻想的な画を発見するイレーヌ。恋に生きようとする娘に、父は、森のレストランで、母の思い出と自分の画のことを語り、人生のやりなおしはきかないとしみじみ告白する……。

60.11.16  
10月中旬旬め

感動の  
ロードショー

伊勢丹前 新宿ビレッジ2 (351) 3129  
シネ・タウン

上映時間  
土・日・祝 10:00 平日 11:50 1:45 3:40 5:35 7:30

特別鑑賞券 1200円発売中

(当日一般1500円 / 大・高生1300円の処)

- 劇場窓口の他、都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケットセゾン、丸井チケットガイド、大学生協会で求め下さい。
- グループ鑑賞のお申込は、(株)メイジャー (541)2508へ。

「パリ、テキサス」絶賛上映中!

みゆき座 新宿文化シネマ2